

WebSphere® Adapters

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for
Siebel Business Applications
ユーザーズ・ガイド
バージョン 7 リリース 0
*Feature Pack 1***

IBM

WebSphere® Adapters

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for
Siebel Business Applications**

ユーザーズ・ガイド

バージョン 7 リリース 0

Feature Pack 1

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、17 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Adapter for Siebel Business Applications バージョン 7 リリース 0 モディフィケーション 1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： WebSphere® Adapters version 7 release 0 Feature Pack 1
WebSphere Adapter for Siebel Business Applications User Guide
Version 7 Release 0 Feature Pack 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2010.6

© Copyright IBM Corporation 2006, 2010.

目次

WebSphere Adapter for Siebel

Business Applications の資料 1

このリリースの新機能 1

管理接続ファクトリーのデプロイメント・プロパティ
ーの設定. 1

デプロイメント・プロパティの設定およびサービ
スの生成. 2

管理接続ファクトリー・プロパティ 7

特記事項 17

プログラミング・インターフェース情報 19

商標 19

WebSphere Adapter for Siebel Business Applications の資料

IBM® WebSphere® Adapters for Siebel Business Applications は、WebSphere Process Server および WebSphere Enterprise Service Bus が Siebel アプリケーション・サーバーと情報を交換するための機能を提供します。

このリリースの新機能

このバージョンには、アダプターのビジネス柔軟性、ユーザー・エクスペリエンス、およびパフォーマンスを向上させるためのさまざまな新機能が含まれています。

サポートされている他の機能に関する詳細な情報は、WebSphere Adapter for Siebel Business Applications インフォメーション・センター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.siebel.doc/doc/stbp_sba_welcome.html) に記載されています。このサイトは、定期的に最新の情報に更新されます。

WebSphere Adapter for Siebel Business Applications は、以下の新機能をサポートしています。

- 空のレコードが戻された場合に対処するための新規プロパティ「結果セットが空の場合にエラーを表示する (Show error on empty result set)」を、管理接続ファクトリー・プロパティに追加。

注: WebSphere Integration Developer では、1 つのバージョンのアダプターのみをワークスペースにインポートしてください。バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプターが使用できます。

ランタイム環境のアプリケーション (EAR) には、1 つのバージョンの組み込み RAR ファイル (バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプター) のみを含めるようにしてください。ノード・レベルがデプロイされたアダプターでも、1 つのバージョンのアダプターのみを組み込んでください。

管理接続ファクトリーのデプロイメント・プロパティの設定

外部サービス・ウィザードで、新規プロパティ「結果セットが空の場合にエラーを表示する (Show error on empty result set)」を構成できます。このプロパティは、管理接続ファクトリー・プロパティに追加されました。これは、RetrieveAll 操作の結果としてレコードが何も返されなかった時に、アダプターが空のビジネス・オブジェクトまたは RecordNotFoundException を返すかどうか (ビジネス・オブジェクトの場合)、および返された Siebel メッセージが NULL だった時に、アダプターが例外を生成するかどうか (ビジネス・サービスの場合) を指定します。

デプロイメント・プロパティの設定およびサービスの生成

モジュールのビジネス・オブジェクトを選択して構成した後、外部サービス・ウィザードを使用して、アダプターが Siebel Business Applications に接続するために使用するプロパティを構成できます。その後、ウィザードは、すべての成果物とプロパティ値を保存する、新規のビジネス・インテグレーション・モジュールを作成します。

始める前に

ビジネス・オブジェクトが構成されていることを確認します。サービス生成およびデプロイメント・プロパティの指定ウィンドウが表示されます。

このタスクについて

モジュールを生成します。モジュールには、サーバーにデプロイした成果物が含まれています。これには、アダプター・ランタイム・ファイルと選択したビジネス・オブジェクトが含まれます。モジュールを生成するには、次の手順を実行します。

手順

1. オプションとして、デフォルトの操作名を変更する場合は、「**操作の編集**」を選択します。「操作名の編集」ウィンドウで新しい名前を入力し、必要に応じて説明も入力して「**OK**」をクリックします。

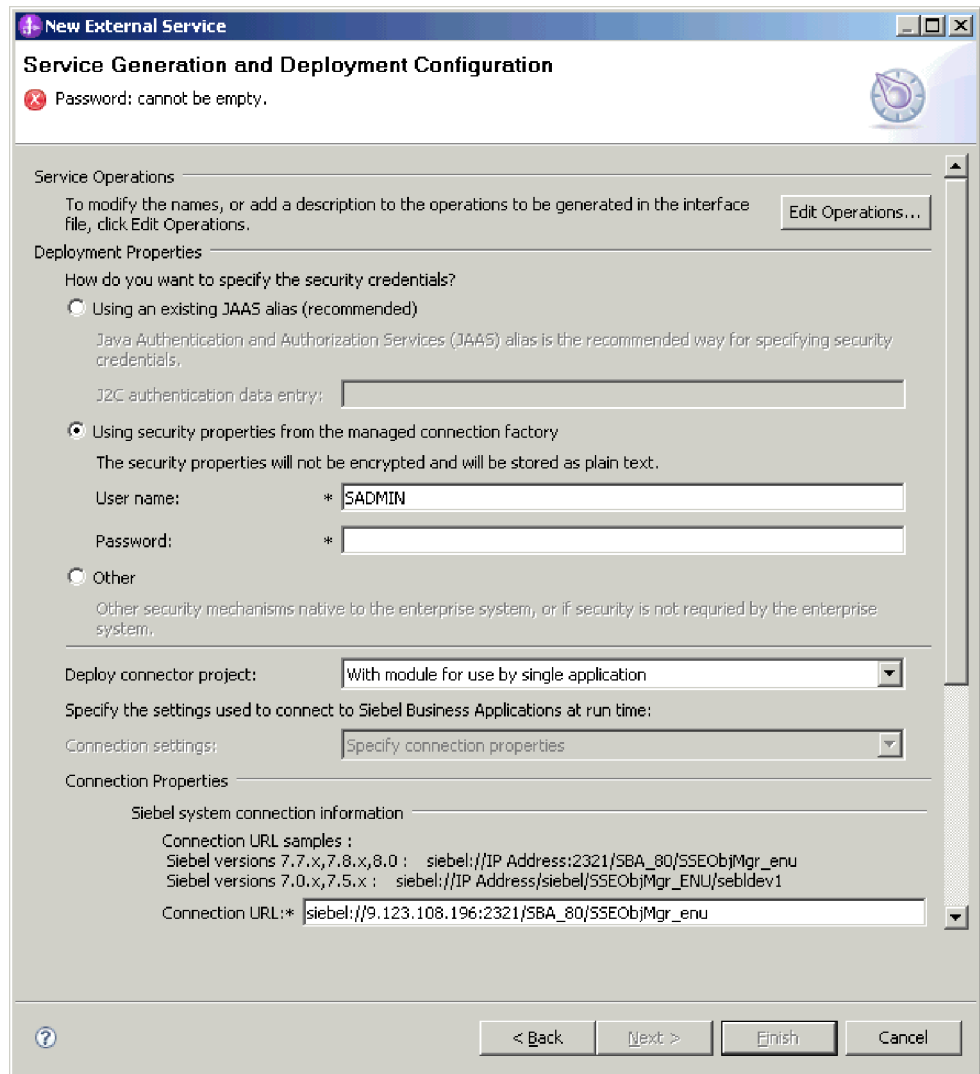


図1. 「接続プロパティ」セクションが表示されている「サービスの生成およびデプロイメントの構成 (Service Generation and Deployment Configuration)」ウィンドウ

- a. 「操作名の編集」ウィンドウで編集する操作を選択し、「編集」をクリックします。
 - b. 「プロパティの追加/編集」ウィンドウで、新規の操作名と説明を入力し、「終了」をクリックします。
2. 以下のようにして、「デプロイメント・プロパティ」領域に必要なセキュリティ資格情報を指定します。
 - J2C 認証別名を使用するには、「既存の JAAS 別名を使用する (推奨)」フィールドを選択し、「J2C 認証データ入力 (J2C Authentication Data Entry)」フィールドに別名を指定します。モジュールをデプロイする前であればいつでも、既存の認証別名を指定したり、認証別名を作成したりすることができます。この名前には、大/小文字の区別があり、ノード名を含みます。

- 管理接続プロパティを使用するには、「管理接続ファクトリーからのセキュリティ・プロパティの使用 (Using security properties from managed connection factory)」フィールドを選択し、「ユーザー名」と「パスワード」の各フィールドに値を入力します。
 - 他の手段からユーザー名とパスワードを管理するには、「その他」を選択します。
3. 「コネクタ・プロジェクトのデプロイ」フィールドで、モジュールにアダプター・ファイルを組み込むかどうかを指定します。次の値のいずれかを選択してください。
- **単一アプリケーションが使用するモジュールで (With module for use by single application):** アダプター・ファイルをモジュール内に組み込むと、モジュールをすべてのアプリケーション・サーバーにデプロイすることができます。組み込みアダプターを使用するのは、組み込みアダプターを使用するモジュールが 1 つある場合か、複数のモジュールでバージョンの異なるアダプターを実行する必要がある場合です。組み込みアダプターを使用すると、他のモジュールのアダプター・バージョンを変更することで、それらのモジュールを不安定にするリスクを生じることなく、1 つのモジュール内でアダプターをアップグレードできます。
 - **複数アプリケーションが使用するサーバー上 (On server for use by multiple applications):** モジュール内にアダプター・ファイルを組み込まない場合は、このモジュールを実行するアプリケーション・サーバーごとに、アダプター・ファイルをスタンドアロン・アダプターとしてインストールする必要があります。複数のモジュールが同じバージョンのアダプターを使用可能で、アダプターを中央の場所で管理する場合は、スタンドアロン・アダプターを使用します。スタンドアロン・アダプターの場合も、複数のモジュールに対して単一のアダプター・インスタンスを実行することにより、必要なリソースが軽減されます。
4. 管理コンソールの「セキュリティ」セクションで指定した名前を「**J2C 認証データ入力 (J2C Authentication Data Entry)**」フィールドに入力します。
5. 「**ディスカバーされた接続プロパティを使用 (Use discovered connection properties)**」をクリックして、プロパティを設定します。

「サーバーで指定した接続プロパティを使用 (Use connection properties specified on server)」を選択した場合は、あとで管理コンソールを使用してプロパティを構成できます。

6. 「接続プロパティ」セクションで、構成に適用される接続プロパティがあれば、それを設定または変更します。ここで示すプロパティについては、7 ページの『管理接続ファクトリー・プロパティ』を参照してください。

アスタリスク (*) が付いているプロパティは、必須プロパティです。

7. オプションで、「**拡張**」をクリックして拡張プロパティを指定します。以下の拡張セクションをそれぞれ展開して、プロパティを確認します。以下の図は、「サービス生成およびデプロイメント・プロパティの指定」ウィンドウの拡張プロパティ・セクションを示しています。

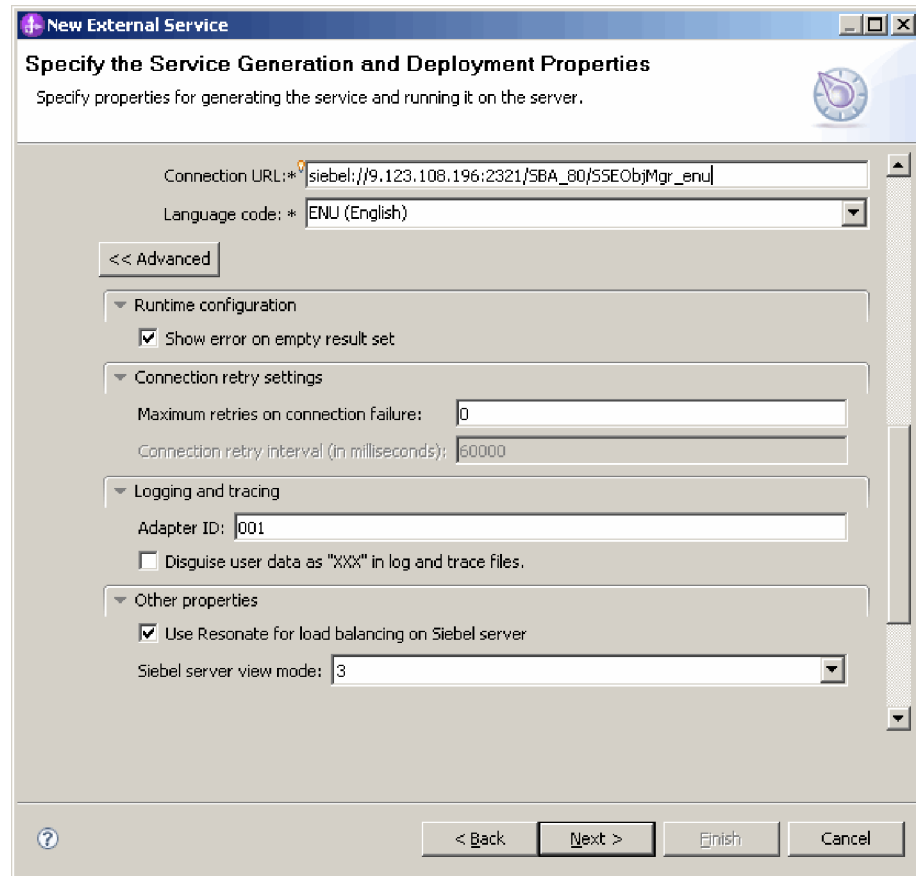


図 2. 「拡張」 ボタンのクリック後に、「拡張プロパティ」 セクションが表示されている「サービスの生成およびデプロイメントの構成 (Service Generation and Deployment Configuration)」 ウィンドウ。

ここで示すオプション・プロパティについて詳しくは、7 ページの『管理接続ファクトリー・プロパティ』を参照してください。

• ログイングおよびトレース

- アダプターの複数インスタンスがある場合は、「アダプター ID」をこのインスタンスに固有な値に設定します。
- ログおよびトレース・ファイル内の機密情報を隠したい場合 (例えば、これらのファイル内のカスタマー情報を見えないようにしたい場合)、「ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する」を選択します。

8. 「次へ」をクリックします。 ディスカバリー・プロパティの指定ウィンドウが表示されます。
9. 「ロケーション・プロパティの指定」ウィンドウで、作成するモジュールの名前を指定します。これは、新規モジュールでも既存モジュールでも構いません。
 - 必要なモジュール名が「モジュール」リストに表示されている場合は、その名前を選択します。

注: モジュールに、現在構成しているものと同じ名前のインターフェースまたはビジネス・オブジェクトが含まれている場合は、モジュール内の元のインターフェースまたはビジネス・オブジェクトを新しいバージョンに置き換えることができます。

- それ以外の場合は、新規モジュールを作成します。
 - a. 「新規」をクリックします。
 - b. 「ビジネス・インテグレーション・プロジェクト・タイプの選択」ウィンドウで、「モジュール・プロジェクトの作成 (Create a module project)」を選択し、「次へ」をクリックします。
 - c. 「モジュールの作成」ウィンドウで、モジュールの名前を入力します。例えば、SiebelOutboundModule とします。
 - d. サービス記述ファイル (.import ファイルおよび .wsdl ファイル) を、モジュール内のデフォルト・フォルダーに入れたい場合は、「デフォルト・ロケーションを使用する」が選択されたままにしておきます。モジュール内の別のフォルダーを指定したい場合は、そのオプションをクリアし、「参照」をクリックして「ロケーション」で異なるフォルダーを指定します。
 - e. ウィザードが閉じたときに、モジュールが WebSphere Integration Developer 内のアセンブリー・ダイアグラムで自動的に開くようにしたい場合は、「モジュール・アセンブリー・ダイアグラムを開く」を選択します。それ以外の場合は、このオプションをクリアします。
 - f. 「終了」をクリックすると、新規モジュールが作成されます。
- 10. ビジネス・オブジェクトに使用する名前空間を指定します。
 - モジュール内のビジネス・オブジェクトがデフォルトの派生 Namespace を使用するようにしたい場合は、「デフォルトの Namespace を使用する (Use default namespace)」が選択されたままにしておきます。
 - 異なる Namespace を指定するには、オプションをクリアして、「Namespace」に異なる値を入力します。
- 11. オプションで、サービス記述が保存される新規モジュール内のフォルダーを指定します。「フォルダー」で、フォルダー名を入力するか、既存のフォルダーを参照します。フォルダー名を指定しない場合、成果物 (インポート・ファイル、XSD および WSDL ファイル) は、モジュールのルート・フォルダー (すなわちモジュール名のフォルダー) に格納されます。
- 12. 「名前」フィールドで、デフォルトのインポート名を受け入れるか、別の名前を入力します。
- 13. 他のモジュールからビジネス・オブジェクトを使用できるようになっているライブラリーに、オプションでビジネス・オブジェクトを保存したい場合は、「ビジネス・オブジェクトをライブラリーに保存 (Save business objects to a library)」を選択し、「ライブラリー (Library)」でライブラリーのロケーションを指定します。
- 14. オプションで、モジュールに関する説明コメントを「説明」に入力します。
- 15. プロパティーの設定を完了したら、「終了」をクリックします。

タスクの結果

新しいモジュールが、ビジネス・インテグレーション・パースペクティブに追加されます。

次のタスク

デプロイメントのための EAR ファイルとしてモジュールをエクスポートします。

関連資料

『管理接続ファクトリー・プロパティ』

管理接続ファクトリー・プロパティは、Siebel アプリケーションとの Outbound 接続インスタンスを作成するために、アダプターが実行時に使用します。

管理接続ファクトリー・プロパティ

管理接続ファクトリー・プロパティは、Siebel アプリケーションとの Outbound 接続インスタンスを作成するために、アダプターが実行時に使用します。

管理接続ファクトリー・プロパティは、外部サービス・ウィザードまたは管理コンソール (デプロイメント後の場合) のいずれかから設定します。

Inbound 通信用の管理接続ファクトリー・プロパティを以下の表に示します。自動化仕様プロパティは、外部サービス・ウィザードを使用して設定します。これらのプロパティは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターを使用して変更することができます。また、デプロイメント後には、管理コンソールを使用して変更することができます。各プロパティの詳細については、表の後のセクションで説明します。後続セクションのプロパティ詳細表の見方について詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/topic/com.ibm.wsadapters.jca.siebel.doc/shared/rsha_interpret_prop_details.htmlを参照してください。

注: これらのプロパティを、外部サービス・ウィザードでは管理接続ファクトリー・プロパティと呼び、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus 管理コンソールでは (J2C) 接続ファクトリー・プロパティと呼びます。

表 1. 管理接続ファクトリー・プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
アダプター ID	AdapterID	PMI イベントのアダプター・インスタンス、ロギングおよびトレースのアダプター・インスタンスを識別する場合に使用します。
接続 URL	connectString	Siebel アプリケーション への接続に必要な、接続 URL
ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する	HideConfidentialTrace	ログおよびトレース・ファイルにユーザー・データではなく X スtringを書き込み、潜在的な機密情報を隠すようにするかどうかを指定します。
言語コード	languageCode	Siebel サーバーへのログオンに使用する言語コード
11 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数 (connectionRetryLimit)』	connectionRetryLimit	アダプターが EIS への Outbound 接続の再確立を試行する最大回数を指定します。

表 1. 管理接続ファクトリー・プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
パスワード	password	対応するユーザー名のパスワード
プレフィックス	prefix	ビジネス・オブジェクト名のプレフィックス
13 ページの『接続が失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒単位) (connectionRetryInterval)』	connectionRetryInterval	接続が失敗した場合に Siebel サーバーへの再接続を試行する際の時間間隔を指定します。
Resonate サポート	resonateSupport	Siebel サーバーに Resonate サポートがインストールされており、値が true に設定されている場合は、アダプターでロード・バランシング機能を利用して Siebel サーバーに効率的に接続するように指定します。
14 ページの『結果セットが空の場合にエラーを表示する (Show error on empty result set) (errorOnEmptyResultSet)』	errorOnEmptyResultSet	RetrieveAll 操作の結果としてレコードが何も返されなかった時に、アダプターが空のビジネス・オブジェクトまたは RecordNotFoundException を返すかどうか (ビジネス・オブジェクトの場合)、および返された Siebel メッセージが NULL だった時に、アダプターが例外を生成するかどうか (ビジネス・サービスの場合) を指定します。
ユーザー名	userName	Siebel アプリケーション へのログインに使用するユーザー名
ビュー・モード	viewMode	Siebel ビュー・モードを指定し、取得可能なデータおよび、そこで実行可能なアクションを制御します。

アダプター ID (AdapterID)

このプロパティは、アダプターの特定のデプロイメントまたはインスタンスを識別します。

表 2. 「アダプター ID」の詳細

必須	はい
デフォルト	001
プロパティ・タイプ	String

表 2. 「アダプター ID」の詳細 (続き)

<p>使用法</p>	<p>このプロパティーは、ログおよびトレース・ファイル内のアダプター・インスタンスを識別します。また、アダプターのモニター時にアダプター・インスタンスを識別する場合に役立ちます。アダプター ID は、アダプター固有の ID、SEBLRA と共に使用され、Log and Trace Analyzer ツールによって使用されるコンポーネント名を構成します。例えば、アダプター ID プロパティーが、001 に設定されている場合、コンポーネント ID は、SEBLRA001 となります。</p> <p>同一のアダプターのインスタンスを複数実行する場合、アダプター ID プロパティーの最初の 7 文字はインスタンスごとに固有で、ログおよびトレース情報と特定のアダプター・インスタンスを相互に関連付けられるようになっています。アダプター ID プロパティーの最初の 7 文字を固有のものにすることにより、そのアダプターの複数インスタンスのコンポーネント ID も固有のものになり、アダプターの特定インスタンスにログおよびトレース情報を相互に関連付けることができるようになります。</p> <p>例えば、WebSphere Adapter for Siebel Business Applications の 2 つのインスタンスのアダプター ID プロパティーを 001 および 002 に設定するとします。これらのインスタンスのコンポーネント ID、SEBLRA001 および SEBLRA002 は、短いので固有性を保つことができ、別のアダプター・インスタンスとして区別することができます。しかし、もっと長いアダプター ID プロパティーのインスタンスの場合、互いを区別できなくなります。2 つのインスタンスのアダプター ID プロパティーを Instance01 と Instance02 に設定した場合、各アダプター・インスタンスのログおよびトレース情報を調べることはできなくなります。これは、両方のインスタンスのコンポーネント ID が SEBLRAInstanc に切り捨てられるためです。</p> <p>Inbound 処理の場合、このプロパティーの値は、リソース・アダプター・レベルで設定されます。Outbound 処理の場合、この値は、リソース・アダプター・レベルと管理接続ファクトリー・レベルの両方で設定できます。外部サービス・ウィザードを使用してアダプターを Outbound 処理用に構成した後、リソース・アダプター・プロパティーおよび管理接続ファクトリー・プロパティーを個別に設定できます。WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターまたは管理コンソールを使用してこれらのプロパティーを再設定する場合は、ログおよびトレース・エントリーのマーキングが不整合にならないように、矛盾がない設定になっていることを確認してください。</p>
<p>グローバル化</p>	<p>はい</p>
<p>BIDI 対応</p>	<p>いいえ</p>

接続 URL (ConnectionURL)

このプロパティは、Siebel アプリケーションに接続するために必要な接続 URL を指定します。

表 3. 「接続 URL」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	プロトコル://machinename:port/enterprisename/object manager/server name。Siebel 7.0.5 から 7.5x の場合: siebel://<IP ADDRESS>/siebel/SSEObjMgr_ENU/sebldev1。Siebel 7.8 の場合: siebel://<IP ADDRESS>:2321/Sieb78/SSEObjMgr_enu。Siebel 8 の場合: siebel://<IP ADDRESS>:2321/SBA_80/SSEObjMgr_enu。デフォルトのポート番号は 2320 です。上記の例 (Siebel バージョン 7.8 および 8 の場合) では、別のポート (2321) を指定しています。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する (HideConfidentialTrace)

このプロパティは、ログおよびトレース・ファイル中のユーザー・データを「X」のストリングに置換し、潜在的な機密データが許可なく外部に漏れないようにします。

表 4. ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述するの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティを True に設定すると、アダプターでは、ログおよびトレース・ファイルに書き込む時に、ユーザー・データを「X」のストリングに置換します。 Inbound 処理の場合、このプロパティの値は、リソース・アダプター・レベルで設定されます。Outbound 処理の場合、この値は、リソース・アダプター・レベルと管理接続ファクトリー・レベルの両方で設定できます。外部サービス・ウィザードを使用してアダプターを Outbound 処理用に構成した後、リソース・アダプター・プロパティおよび管理接続ファクトリー・プロパティを個別に設定できます。WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターまたは管理コンソールを使用してこれらのプロパティを再設定する場合は、ログおよびトレース・エントリーのマーキングが不整合にならないように、矛盾がない設定になっていることを確認してください。
グローバル化	いいえ

表 4. ログ・ファイルおよびトレース・ファイルで、ユーザー・データを「XXX」と記述する
の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

言語コード (LanguageCode)

このプロパティーは、Siebel サーバーへのログオンに使用する言語コードを指定します。

表 5. 「言語コード」の詳細

必須	はい
使用可能な値	なし
デフォルト	ENU
プロパティー・タイプ	String
使用法	システム・ロケールが英語の場合は、このプロパティーの値は ENU (英語) です。これは、Siebel サーバーへのログオンに使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の最大再試行回数 (connectionRetryLimit)

このプロパティーは、Outbound 接続関連のエラーがアダプターで発生した場合に、アダプターが Siebel サーバーへの接続の再確立を試行する回数を指定します。

表 6. 「システム接続に失敗した場合の最大再試行回数」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ゼロ以上の整数
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	Integer

表 6. 「システム接続に失敗した場合の最大再試行回数」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティに設定される値に応じて、アダプターの動作は以下のようになります。</p> <p>0</p> <ul style="list-style-type: none"> 始動時または接続の確立中にエラーが発生した場合、アダプターは Siebel サーバーへの再接続を試行しません。 実行時に Outbound 要求がある場合、アダプターは Siebel サーバーへの接続が有効かどうかを検証しません。 <p>> 0</p> <ul style="list-style-type: none"> 始動時または接続の確立中にエラーが発生した場合、アダプターは Siebel サーバーへの再接続を、指定された回数だけ試行します。 実行時に Outbound 要求がある場合、アダプターは Siebel サーバーへの接続が有効かどうかを検証します。接続が無効な場合、接続は強制終了され、要求を処理するために新しい接続が作成されます。 <p>アダプターが指定の回数だけ試行しても接続を確立できない場合は、接続エラーが生成されます。</p> <p>アダプターが接続の再確立に成功した場合、Outbound 操作は完了します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パスワード (Password)

このプロパティは、対応するユーザー名のパスワードを指定します。

表 7. 「パスワード」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
例	sadmin
使用法	<p>このプロパティは、外部サービス・ウィザードの「接続プロパティ」ウィンドウで「拡張」ボタンをクリックすると表示されます。パスワードは .import ファイルおよび .export ファイルに保存されます。これにより、デプロイ後にアダプターが Siebel アプリケーション に接続できるようになります。J2C 認証別名を使用する場合、パスワードは不要です。</p>
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

プレフィックス (Prefix)

このプロパティは、ビジネス・オブジェクト名のプレフィックスを指定します。

表 8. 「プレフィックス」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし

表 8. 「プレフィックス」の詳細 (続き)

プロパティ・タイプ	String
使用法	プレフィックス・ストリングはビジネス・オブジェクト名の前に付加されます。
例	プレフィックス IBM を使用し、EAI Siebel Adapter 用のビジネス・オブジェクトおよび Insert メソッドを生成し、統合オブジェクト Account (PRM ANI) を選択した場合、対応するビジネス・オブジェクトとして IBMEAISiebelAdapterInsertAccountU40PRMANIU41 が生成されます。ここで、U40 および U41 は (and) を Unicode 値に置き換えたものです。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

接続が失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒単位) (connectionRetryInterval)

このプロパティは、接続が失敗した場合に Siebel サーバーへの再接続を試行する際の時間間隔を指定します。

表 9. 「接続が失敗した場合の再試行間隔」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 以上の整数
デフォルト	60000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティは、プロパティ 11 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数 (connectionRetryLimit)』の値が 0 より大きい値に設定された場合のみ適用されます。 このプロパティは、アダプターが Siebel サーバーへの接続を確立しようとしてエラーが発生した場合に、接続の再確立を試行するまでアダプターが待機する時間間隔を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

Resonate サポート (ResonateSupport)

このプロパティは、Siebel サーバーが Resonate サポートを使用するかどうかを示します。

表 10. Resonate サポートの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean

表 10. Resonate サポートの詳細 (続き)

使用法	このチェック・ボックスを選択すると true に設定され、アダプターがロード・バランシング機能を利用して、より効率的に Siebel サーバーに接続ようになります。チェック・ボックスを選択しないと、false に設定されます。
グローバル化	いいえ

結果セットが空の場合にエラーを表示する (Show error on empty result set) (errorOnEmptyResultSet)

このプロパティは、RetrieveAll 操作の結果としてレコードが何も返されなかった時に、アダプターが空のビジネス・オブジェクトまたは RecordNotFoundException を返すかどうか (ビジネス・オブジェクトの場合)、および返された Siebel メッセージが NULL だった時に、アダプターが例外を生成するかどうか (ビジネス・サービスの場合) を指定します。

表 11. 「結果セットが空の場合にエラーを表示する (Show error on empty result set)」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ビジネス・オブジェクトの場合: True ビジネス・サービスの場合: False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>ビジネス・オブジェクトにおけるこのプロパティの設定ごとの動作は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • True: RetrieveAll 操作でレコードが検出されなかった場合に RecordNotFoundException をスローします。 • False: RetrieveAll 操作でレコードが検出されなかった場合に空のビジネス・オブジェクトを返します。 <p>ビジネス・サービスにおけるこのプロパティの設定ごとの動作は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • True: レコードが返されなかった場合に RecordNotFoundException をスローします。 • False: レコードが返されなかった場合にヌルの Siebel メッセージを返します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ユーザー名 (UserName)

このプロパティは、Siebel アプリケーションへのログインに使用するユーザー名を指定します。

表 12. 「ユーザー名」の詳細

必須	はい
----	----

表 12. 「ユーザー名」の詳細 (続き)

使用可能な値	なし
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、外部サービス・ウィザードの「接続プロパティ」ウィンドウで「拡張」ボタンをクリックすると表示されます。ユーザー名は .import ファイルおよび .export ファイルに保存されます。これにより、デプロイ後にアダプターが Siebel アプリケーション に接続できるようになります。J2C 認証別名を使用する場合、パスワードは不要です。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

ビュー・モード (ViewMode)

このプロパティは Siebel ビュー・モードを指定し、取得可能なデータおよび、そこで実行可能なアクションを制御します。

表 13. ビュー・モードの詳細

必須	はい
デフォルト	アダプターは 1 から 9 までの値をサポートしますが、デフォルト値は 3 です。
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	ビュー・モード・プロパティは、Siebel ビジネス・オブジェクトにのみ適用され、Siebel ビジネス・サービスには適用されません。Siebel ビジネス・オブジェクトに対してこのプロパティを使用する場合のデフォルトは 3 です。
例	アダプターは 1 から 9 までの値をサポートします。例えば、1 は Manager View、2 は Personal View、3 は All View です。
グローバル化	いいえ

関連タスク

2 ページの『デプロイメント・プロパティの設定およびサービスの生成』モジュールのビジネス・オブジェクトを選択して構成した後、外部サービス・ウィザードを使用して、アダプターが Siebel Business Applications に接続するために使用するプロパティを構成できます。その後、ウィザードは、すべての成果物とプロパティ値を保存する、新規のビジネス・インテグレーション・モジュールを作成します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間 1623 番 14 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Department 2Z4A/SOM1
294 Route 100
Somers, NY 10589-0100
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関するすべての記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを

経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。「(c) (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (c) Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告:

診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org>) により開発されたソフトウェアが含まれています。



Printed in Japan